

「おはようございます！」

朝から子どもたちの元気な声が返ってくる。とてもうれしくなる。元気をもらえる。

校園長になって1年目。私が自分に課したことは、毎日、あいさつ運動しながら、通学路のごみを拾うこと。私は学校に出勤してから、校門で子どもたちを待つのではなく、今日は東室方面、今日は線路東方面、今日は本郷・フルール方面、今日は東和苑方面と、あいさつ運動と通学路のごみを拾いながら、子どもたちの部団登校の指導・見守りをしている。

私はあいさつで心がけていることがある。自分から大きな声で相手の目を見て笑顔であいさつをすることだ。教職員にも同じことを話し、丁寧なあいさつの対応で教職員や学校の印象が変わるということを伝えている。

地域に出ると気づいたことがたくさんある。

まず4月はごみの量が多かったことだ。1ヶ月でゴミ袋がほぼいっぱいになった。お菓子の袋だけではない。マスク、たばこなども落ちている。本郷・フルール方面に行くときには、疋田公民館の公園のごみも拾いに行く。4月や5月の全校朝会でそのことを子どもたちに伝えた。子どもたちは「綺麗な町に住みたい。」と言う。

その後、子どもたちも気づいて、ごみがある場所を教えてくれたり、ごみを拾ってくれたりした。また、疋田公民館の方から、子どもたちが「ゴミ袋ありませんか？」と来て、ごみを拾っていたということも聞き、とてもうれしくなった。子どもたちには給食時間の放送のときに、すぐにそのことを伝えた。5月、6月、7月と少しずつごみの量は減ってきている。

子どもたちを迎えに行くと気づいたことがたくさんある。私があいさつをする前に、遠くから大きな声であいさつをしてくれる子ども。私があいさつをしたらしっかり返してくれる子ども。しかし、私があいさつをしても返してくれない子どももいる。そのときは少し心配する。

「お家で何かあったのかな？昨日、学校で何かあったのかな？」

と…。

通学路を歩いていると、地域のおじいちゃんやおばあちゃん、保護者の方も家から出てきて、

「おはようございます。」や「いってらっしゃい。」

と子どもたちに声をかけてくれている。

先日、あるおばあちゃんから、

「先生、あいさつをしても子どもたちから何も返ってこないときは、寂しい気持ちになるわぁ。」

と聞かされた。

今年度、学校支援ボランティアに地域のおじいちゃんやおばあちゃんは18名も登録していただいている。保護者の方は9名。学生2名。学校の畑の畝作り、芋の苗植えや菜の花の刈り取り、トマトの苗植え・わき芽つみ、町探検や給食センターの見学など校外学習の付き添い、家庭科の調理実習のお手伝い、生き物探しの生き物博士、水泳学習の補助、図工の授業支援など、子どもたちのために無償でお手伝いしてくださったり、見守りをしてくださったり、教えてくださったりしていただいている。本当にありがたいし、あたたかい地域だと感じる。

少子高齢社会、核家族化の現在、私は、おじいちゃん、おばあちゃんたちとふれ合い、知識や技術を教えてもらうことは、先人の知恵を学ぶことだけでなく、自分も含め人を大切に作る心が育つと考えている。

そのような意味でも、あいさつはコミュニケーションの第一歩。地域の人、また地域の人だけでなく、これから子どもたちが生きていく上で関わるすべての人から、愛し愛される子どもたちであってほしい。

最後に、私たち教職員一同、保育教育活動がより一層深化していくよう、チーム新北【**しん**けんに向き合い **き**ずなをふかめて **た**どりつくまで】で取り組んでいきたいと考えています。

保護者、地域の皆様におかれましては、たいへんお忙しいとは思いますが、今後とも本校園保育教育活動に、ご理解、ご協力、ご支援を賜りますよう、よろしく願い申し上げます。